

発表者 卯月 勝

テーマ 「学校・家庭・地域の連携による教育について」

私の名前は卯月勝と申します。よろしく申し上げます。私は中野区が大好きです。経歴を簡単に述べさせていただきます。私は桃園小に入り、6年のときに100周年ということで、在校生代表の挨拶をしました。仕事は信託銀行に入社、銀行業務以外では広報業務、子会社の株式上場公開、あと、この15年は内部監査業務をしています。内部監査は、リスクは何か、どうコントロールすればリスクを軽減できるかということを考えるだけではなく、目的と定めたことを達成するための戦略を考える業務です。この知見で、今回のアプローチの説明をさせていただきます。

趣味では、空手で外国人の方と道場で一緒にやっています。娘は中1で、親子農園で貴重な体験をさせていただきました。どうもありがとうございました。

まず、教育環境の現状認識です。中教審が8月に答申を出しています。「一丁目一番地は教員」だということで、教員の待遇改善、負担軽減を打ち出しています。地域との関わりということでは、保護者の89%は地域社会が子どもたちの成長に関わっていくべきだと言っています。今年2月に発表した中野区の実施計画でも、地域と交流がある人の割合を32%から42%と、もう既に行動が実践されています。

文科省のホームページです。文科省のほうも、コミュニティ・スクールを推進していくために、文部大臣表彰を始めるということを公表しています。

中野区のほうですが、今月、コミュニティ・スクールを一步進めるということで、協議会を地域から学校ごとに進めるということを公表しています。

次、東京都のサポートです。東京都は人や金を提供し、規定類の提示もしています。これから規定をつくっていくことになると思うのですが、制度を活性化させていくためには、インセンティブを支援者や子どもに与えることが有効と思っています。高齢者には、高齢者の表彰制度、子どもで留学したい子には、それが役立つような仕組みができて、世界に羽ばたくような枠組みができれば素晴らしいことになると思っています。

中野区の現状ですが、既に明和中学校区でコミュニティ・スクールを開始して、具体的な活動をしているということが公表されています。私としては2点、生きる力を高める活動をテーマに追加してもらいたいことと、もう1つは学習指導員に高校生や大学生の活用をと思います。お兄さん、お姉さんの立場の目線で、有機的に活動ができればということを提案したいと思います。

具体的にはどういうことかということ、まず何と言っても加えていただきました

いのは、郷土の歴史教育です。第4次中野区教育ビジョン、こちらのほうの実現です。これをどうしてもコミュニティ・スクールで実現していただきたいと思います。「中野区検定」もありますので、ここで優秀な方を指導員にして、熱い中野ファンを増やしていただきたいと思います。

あと、伝統野菜の栽培。高齢者農園というのは、グループで貸し出しているようです。私自身、親子農園を借りて、おじいちゃん、おばあちゃんにいろんな知恵を授かりました。娘もそれで生きる力を育ませていただきました。ぜひこれとは連携していただきたいと思います。

続けて、海外文化、留学生との交流。中野に来ている学生も、学力だけではなくて、プラスアルファの能力を持って中野に来ています。この能力を中野で広げる場にしてもらいたいと思います。

あと、戦争体験の伝承。中野は焦土になりましたが、生存者はまだいます。伝承に肉親は不向きです。私ももっと親から聞いていればよかったと思います。今、行政の役割って非常に大きいと思います。

あと、自然エネルギー、井戸の活用。都や区はいろいろないい施策を、環境施策をしています。それをぜひスクールで学んで、生きる力を育んでもらいたいと思います。

私がしたいことをまとめると、こういったことになります。中野区教育大綱（基本理念）の「中野のまちの強みを生かし、一人ひとりの生きる力を高めて、まぎしくこの教育大綱の実現ということ」になります。周りの区はまちの強みをどうしているのかなということで、地域の郷土資料館を回りました。一番多いのは、やはり歴史とか小説、漫画に出てくるまち並みを紹介して、これに見入っている人は非常に多かったです。こちら「大漫会の漫画家たち」は練馬区なのですが、「何でこういう企画ができているの？」と聞いたら、館長を漫画家にしたということでした。ガイドも大事です。下町のガイドって非常に優秀なのですけれども、表彰を設けたりして、墨田区ではこんな企画もありました。なんと、中野区で被災したという絵が展示してありました。下町で被災した後、中野に逃げてきて、これは新井薬師のところの階段なのですけれども、兄が自転車を火の粉の中、持って上がっていたという説明が書かれております。「その兄も88歳で一昨年亡くなりました」と書いてあります。こちらは中野坂上付近で、「翌日朝、死体がいっぱい出た」ということを書いてあります。

私の周りでどうだったかということなのですが、「みんな焼けてしまって何もない」と親から聞いていたのですが、実際、死後、こんなものが出てきました。これは明治37、8年の役と書いてあるのは、日露戦争を当時はこのように言ったそうです。何でこんなものが、焼けているはずなのにあるのかということ、最近知った話なのですけれど、これを身に巻いて、焼けている

中を逃げて回ったということを、教えてくれる人がいました。そういう話を聞くと、「先祖が明治、大正と中野に尽くしてきたのだな。私もそれを踏まえて、中野のためにこれからできることをしっかりやっていきたいな」と思っています。

私のしたいこと、繰り返しですが、内部監査で培った知見で、区の教育大綱の実現をしていきたいということをお話しさせていただきました。ご清聴いただき、どうもありがとうございます。

区 長      あまりにも濃密過ぎてびっくりしましたけれども、郷土歴史資料館みたいなところというのは、回られたのですか。

卯 月      回りました。正直言って、予算も人もいろいろあるのですが、例えば港区は、大使館、その変遷を展示していますし、文京区は加賀の上屋敷を中心に東大があり、これで文京区なのだと。どの区も共通して1つ、一番言えるのは、文化とのなじみを強調するのが親しみが強いかなと感じました。

区 長      ちなみに中野の歴史民俗資料館はどうですか。

卯 月      申し訳ないですが、文化に関する展示はいま一つかなと思います。文芸とのなじみということはないです。あと、これを言ってしまうといけないのですが、ほかの区の方々はみんな知っているようですが、やはり学芸員の外注というのは限界あると思います。そのついでで言いますと、渋谷区で平岩弓枝展というのをしていました。学芸員に「どうしてこんな企画ができたの？」と聞きましたら、「私が区役所に入ってすぐ平岩先生と縁ができ、もう亡くなってしまったのだけれども、平岩さん、代々木八幡の神主で敷地は広いのだけれども、そういう縁で全部寄贈していただいたからです。」そういうのは区で学芸員も育てていかないとできないのかな。なかなか難しいのですが、少しずつそういうことをしていかないと、郷土愛というのは限界があるのかなと思います。

区 長      ほかの区というのは大体学芸員はプロパーの方なんですかね。

卯 月      僕が聞いたのは23区以外で、中野以外はないのではと聞いた。三鷹か八王子だか、都下のほうはそういうところがあると聞きま

した。それだけが原因ではないのですけれども、そういう話を聞くと、そういうところからも1つ1つ、中野に対する郷土愛というのを広めていく必要があるのかなという気はしました。

区 長 コミュニティ・スクールが来年度から全校でという話でありますけれども、その中で展開されての課題って何だと思えますか。

卯 月 さっき2つ申し上げたのですけれども、1つは制度を活性化するためには、やはりインセンティブというのが必要かなと気が付きました。ほかの区を見ていると、高齢者の表彰制度もやっているところが多いと感じました。

区 長 地域の人のということですね。

卯 月 地域の、協力しているおじいさん、おばあさんたち、10年協力しました。こういう貢献した人は辞めるときや、死んだときに表彰する、そういうモチベーションがあると良いかと。あと、郷土資料館に行って、これも分かったことなのですけれども、ボーイスカウトみたいな帽子をつけたり、マークをつけたりして、グループで勉強している子どもたちが結構いました。「これ何で」と聞いたら、「グループリーダーといって、子どもたちから選ばれた子たちが、学校でみんなに教えるために自分たちで勉強している。」と言われました。そういういろんな知恵を出せば、学芸員だけに頼らなくても、みんなで楽しく盛り上げていくということをしていくのが必要なのかなという気がしました。

区 長 分かりました。ありがとうございます。